

3 - 9 油壺・鋸山における地殻変動観測 (その7)

Secular Ground Tilts and Strains as Observed at

Aburatsubo and Nokogiriyama (7)

油壺地殻変動観測所

鋸山地殻変動観測所

Aburatsubo Crustal Movement Observatory and
Nokogiriyama Crustal Movement Observatory,
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

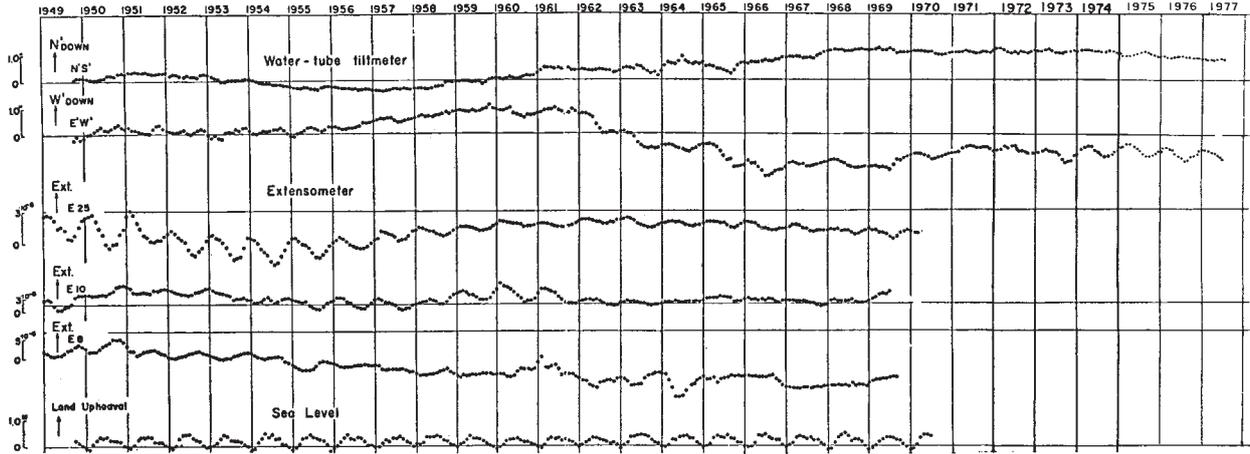
前六報に引続き、1975年秋以降の観測結果概略を報告する。

油壺の水管傾斜計 N'S' 成分にはその後も格別の動きは見られない。同、E'W' 成分は1971年中頃を境に緩い E' 下りに転じたが(第4報参照)、その傾向はいまにいたるまで続き、この6ヶ年間に0.5~0.6秒程度進んだ(1973年に一時的逆転あり)。E'W' 成分の動きが三浦半島の大局的傾動(半島基部に対する先端部の昇降)とある種の相関を示すことは経験的に知られている。それが現在も成立しているとすれば油壺ではこのところ緩やかな沈降を続けているものと思われる。

鋸山の水管傾斜計 NS 成分は1974年初期から S 下りに転じ、0.3~0.4秒進んだ。EW 成分は設置当初(1959年)いらい一貫して E 下りを続け、いままでに約1.2秒に達した。それにも数年単位くらいの消長が見られ、NS 成分と期を同じくして1974年初めからは傾動速度が低くなったように見える。両成分に見られるゆらぎが移動性地殻変動によるものであれば、まもなく油壺にもその反映が現れるようになろう。

白浜では1974年中期からオートベルによる簡易傾動測量を続けている。第3図はその結果を鋸山の傾斜資料と比較したものである。地表観測のためかなり大きな乱れはあるが、1974~76年にかけて S 下りの傾向がうかがわれる。

ABURATSUBO

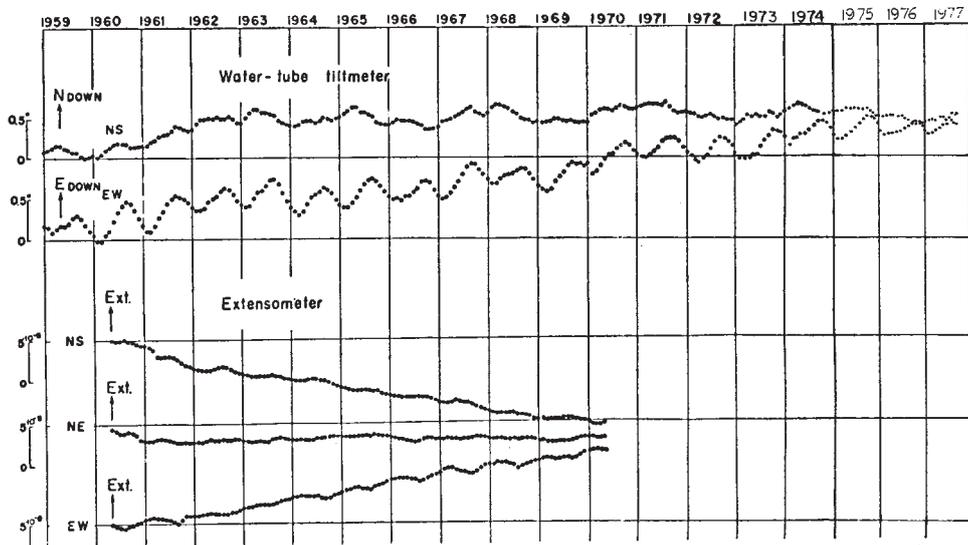


B-1

第1図 油壺における土地傾斜・伸縮（月平均値）

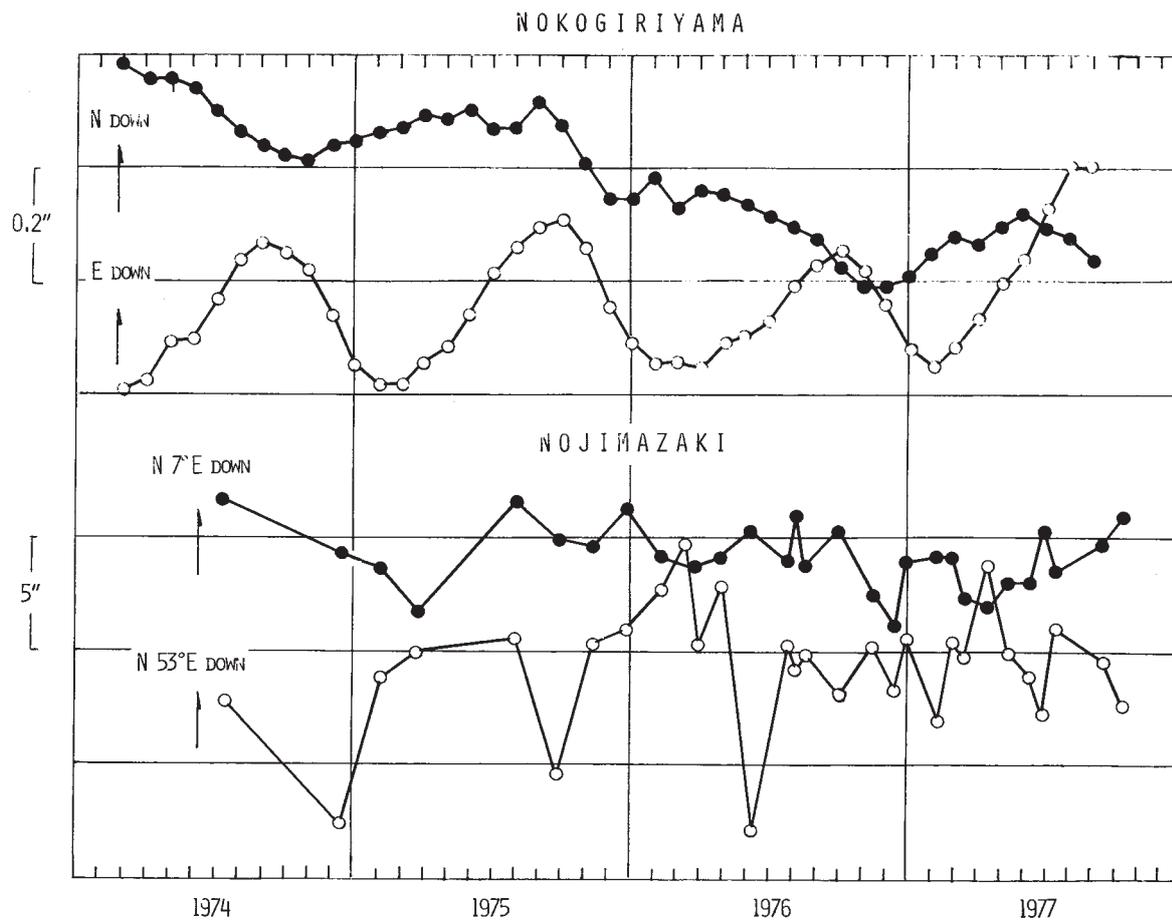
Fig. 1 Ground tilts and strains at Aburatsubo(monthly mean values).

NOKOGIRIYAMA



第2図 鋸山における土地傾斜・伸縮（月平均値）

Fig. 2 Ground tilts and strains at Nokogiriyama(monthly mean values).



第3図 鋸山の傾斜記録と比較した野島崎における傾動測量結果

Fig. 3 Ground tilts at Nojimizaki (leveling quadrilateral, irregular reading) as compared with those at Nokogiriyama.